## 流行性腦炎病後歷 / 檢討

岡山醫科大學精神病學教室(主任林教授)

## 武 野 一 雄

流行性腦炎病後歷ノ檢討ハ2ノ意義ガアルト思フ、1ハ疫學上ノ事項デアツテ,患者ノ肉脾ノ内ニ印刻サレテキル後胎症狀ヲ目標トシテ疾患ノ起源ヲ推測シ,單ニ文籍ノ繙證カラ來ツタ知見ヲ是正又ハ裏付ケンスル試ミデアル、2ハゴク特殊ナ腦炎病型時事問題ニ關係スル、金子教授ノ新設ニ據レバ,流行性腦炎ニハ A, B ノ兩型ガアリ,本邦獨特ノ B 型ニハ Parkinsonismus ヲ起スコトガ全クナイト云フ、コレハ畢竟病後歴ノ討究ニヨツテ決セラルベキモノデアラウ、私ハ Polemik ヲ試ミル意志ヲ持タナイカラ,コト更ラ,コノ問題ニ觸レヨウトハシナカツタガ,實際調ベテミルト,ソレガドンナコトニナツテキルカ,後文ノ記述ノ問ニ自然明カニナツテ來ルト思フ。

私ハ3種ノ材料ノ調査ヲ試ミタ、ソノ第1ハ私ガ大正13年來觀察シテ、ドウシテモ流行性腦炎後胎症ニ相違ナイト診定シタ77名、82病例(人數ト病例數トノ一致シテキナイノハ同一人デ再發ノアツタ爲メデアル)ニ就テ、信憑スベキ既往歴ヲ探リ、以テ發病ノ年月ト當時ノ症狀トヲ明カニスルコトデアツタ、コノ中、年代ノ記憶ノ稍正確ナラザル嫌アル7人7例ヲ除イタ70人75例ハ、豫想ノ通り、何處カラ見テモ間違ノ無イ流行性腦炎ノ急性期ヲ經過シタモノデアルコトガ、證明セラレタト共ニ、年代的分布ハ大正7年3例、8年4例、9年4例、10年9例、11年4例、12年1例、13年29例、14年13例、15年7例、昭和2年1例トナツタ、コレデ見ルト岡山地方ニ大正7年以降流行性腦炎ノ存在スルコトハ最早ヤ疑ヲ挾ム餘地ガ無クナツテ了ツタ、グガ、7年以前ハドウデアルカ、マダ何トモ云フコトハ出來ナイ、

デ更ニ廣汎ナ第2ノ調査ニ進ンダ. 私ハ岡山縣衞生課長根岸顯藏氏ノ非常ナル好意ニョリ, 同課所藏ニ保ル 大正元年以降 13 年ニ至ル 流行性腦脊髓膜炎及ビ流行性腦炎罹患者ノ届出名簿 ヲ借覽スルノ機會ヲ得タノデ,ソノ總人員 1328 名中住所が明瞭デ且生存者ト見倣サレル 794 名 ニ對シ,病後歴討究ヲ目的ヲ以テ次ノヤウナ問合セヲ送ツテ見タ.

- 1. 頭ヤ頸ャ手足ヲ動カスノニ不自由ハアリマセンカ.
- 2. 頸ヤ手足ヤ身體ガ農ヘル様ナ事ハアリマセンカ.
- 3. 動カサウト思ハナイノニ頸ヤ手足ヤ身體ガヒトリデニ動ク様ナコトハアリマセンカ.
- 4. 身體ニ觸ツテ感ジノ惡イトコロヤピリピリ痛ムトコロヤシビレタ所ハアリマセンカ.

- 5. 歩りノニ不自由ハアリマセンカ. 歩キ振リハドンナ榛子デス. 歩イテキテ前ャ横ニ倒レタリシマセンカ.
- 6. 身體ヤ手足ヲ動力スノニヒマガカカル樣ナコトハアリマセンカ・
- 7. 顔貌ニ變リハアリマセンカ・タトへパ眼瞬キガ少ナカツタリ、右ト左ガ不平均ダツタリ、眼ガシツカリ瞑レナカツタリスル機ナ.
- 8. 耳ハヨク閨エマスカ、此頃耳ガ漆クナカツタリ耳鳴ヤ眩暈ガスル様ナコトハアリマセンカ・
- 9. 物ガニツニ見エタリ,眼ガ時々ヒキツツタリスル様ナコトハアリマセンカ・
- 10. 酸語ニ差支ハアリマセンカ. ドモッタリ鼻蟹ニナッタリハッキリヨヘナカッタリシマセンカ. 又物 ノ言ヒ方が變ダト人ニ注意セラレタコトハアリマセンカ.
- 11. 攝食=變リハアリマセンカ、例へが物ヲ食ベルトムセタリ物ガコボレタリ又ハ時間ガ長クカカルト イフ様ナ・
- 12. 近頃氣ガ短カクナッタリ、記憶ガ惡クナリハシマセンカ・又頭ガ惡イノデハナイカト人カラ注意ラ 受ケタ事ハアリマセンカ・
- 13. 夜分眠レナカツタリ或ハ反對ニ眠クテシカタガナカツタリスルコトハアリマセンカ.
- 14. ソノ他オ氣付キノ點, オ尋ネニナリタイコトナド此欄へ御記入下サイ・

重要ナ後胎症即チ錐體道性、外錐體道性運動障礙、及ビソノ隨件症状、感覺異常、精神變調並ニコノ疾患ニ膜遺サレル複視暗視痙攣トイツタヤウナ特異ナ微候へ大體コレデ網羅シタツモリデアル、私ハ始メ此試ミノ效果ニ就テ自分ナガラ竊ニ懸念ヲ抱イテヰタ、一體人ハコンナ質問ニ對シテ答へテクレル規切ヲ持チ合セテヰルダラウカ・設令、答へテクレタトシタトコロデ、遠隔診斷ガ可能ナ程明確ナ記載ニ接スル望ミガアルダラウカト思ツテヰタノデアル、トコロガソレハ單ナル杞憂ニ過ギナカツタ、發信 794 通ニ對シ返信 350 通、コノ中罹患ヲ否定セルモノ 5、文章ノ意味ヲ解シ難キモノ 18、當時死亡 112 ヲ除イタ 215 名ノ信憑スペキ記載ヲ得タノハ望外ノ幸デアツタ、證狀ノ敘述亦シカク摸稜デナク、略病型ヲ推測スルニ足リタノハ 愈ウレシカツタ、猶、6—7 ノ人士ノ如キハ遠クカラ態々岡山マデ出テ來テ、我敬室ヲ訪問シ自分ノ疾患ヲ示スノ好意ヲサへ表サレタ、次ニ全體ノ結果ヲ檢討シテ見ヤウ・

マダ大正元年度カラ始メル、何分問合狀發送當時カラ 16,7年前ノコトダカラ、否定、不明、當時死亡ノ外ニ、其間老イテ館ヲ捐テタ人ナドモ加ハリ、確實ナ囘答ヲ送ツテ吳レタ人ハ僅カ 67 例デアツタ、ソノ中毫モ支障ヲ見ナイト罹スル人 49 名、ゴク輕度ナ睡眠障礙、記憶不良、刺戟性精神、眩暈、耳鳴、言語吃吶、歩行異常ヲ訴ヘテキルガ、未ダ顕著ナ1 疾患ヲ成シテハキナイ卽チ略健康人ノ域内ニアリト見做サレル人 15 名デアツタガ、残り 9 名ニ於テ始メテ明瞭ナ後貽症ニ接スルコトガ出來タノデアル、今コレヲ昭和 3 年現在ノ年齢順ニ配スト、第1 例ハ三宅某 15 歳ノ男子、半身不全麻痺デ、音聲著シク鼻調ヲ帶ビテキルトイフ・蓋シ構音器官ニ何等カノ機能不完ガアルタメダラウ、第 2 例ハ津郷某女、24 歳、運動著シク緩慢、言語遲徐、イヅレモ近者益々増强ノ傾向ガアルサウデアル、第 3 例田中某 26 歳男子、運動同様ニ敏活ヲ飲ク、驅足ナドハ到底ヨクシナイト附記サレチアルノハ殊ニ味ガ深イト思フ、震顫モ亦劇シイ・第 4 例堀某女 55 歳、運動殺語ノ澁滯、震顫、前後方ノ突進症、假面狀類貌、流涎等ニ加フルニ複視ガアル・第 5 例ハ齋藤某 55 歳男

子,第6例ハ鹽田某女59歳,2人共複視ヲ訴ヘタ.第7例ハ液邊某63歳/男子,同ジク複視ニ供フニ牛身不全麻痺ヲ以テシタ.第8例妹尾某74歳男子,半身不隨ニ健忘ガァルトイフ.第9例平野某女79歳,不全麻痺ト震顫トヲ見ルサウデアル.コレ等ノ例ノ内デ,第8及ビ9例ハ既ニカナリナ高齢ニ達シテキルガ,斯クノ如キ障礙ハ罹病直後ニ發シタトイフ但書ガアツタ爲メ特ニ採ツタ.タダ一般ノ老人性病變トノ區劃ニ多少ノ曖昧ヲ忍バナケレバナラヌ愛ガアリトスレバ,姑ク問題ノ外ニ置イテモ差支ハナイ.ガ,他ノ7例ニ至ツテハドウ見テモ立派ナ後胎症デアル.第1例ハ大正元年ノ罹患當時ニハタツタ1歳,ペカモ目令普通ノ錐體道性麻痺ヲ有シテキルニ過ギナイカラ,必ズシモ流行性腦炎ヲ俟タズ流行性腦脊髄膜炎デモ説明ハツクカモシレナイガ,第2,第3例ノ如キソノ臨牀像ハParkinsonismus以外ニ考ヘヤウガナイ.ノミナラズ,年齢モマダ若ク到底振頭麻痺デハアリ得ナイ.流行性腦炎後胎症ノ1型タルコト疑ヲ容レズト思フ.第4例モ亦同様ノ意味ニ於テ後脳炎性Parkinsonismusデナケネバナテヌ.タダコノ例ハ年55歳,既ニ振顫麻痺時代ニ足ヲ踏ミ人レテキル點ニ於テ少シク考慮ヲ要スルガ,第5第6第7ノ各例ト等シク複視ヲ持ツテキルガ爲メ脳炎後胎症タルコトガ立派ニ確定サレテ了ツタ.カウイフ材料ト考察トノ結果ハ私ヲシテ安心シテ斷言セシメル.即チ大正元年投ハドコカラ見テモ到底疑フコトノ出來ナイ脳炎後胎症ヲ遺残シテキル.故ニ大正元年ノ投ハ流行性脳炎ニ相違ナイト.

大正2年カラ同12年ニ至ル間ハ收穫甚ダ貧シカツタ・當時ノ死亡,不明ヲ除キ辛ウジテ得タ19名中,タ ダ4例ノ後胎症ニ接シタノミデアル·第1例ハ中野某, 大正3年ニ罹患シ, 現在身體ニ老衰ノ諸黴ヲ備ヘタ 67 歳ノ男子デ, 原病ノ經過中ニ酸シタ硝子體溷濁ヲ持ツテキル. 第2例ハ大正 11 年ノ症例デ, 現今 48 歳ノ 原田某女, 輕イ Parkinsonismus ガ證明サレタ・第 3 例へ同ジク大正 11 年疫ニ屬スル 70 歳ノ男子間野某ト イフ, ズツト引續イテ偏癱ニ累ハサレテヰルラシイ・第4例ハ木原基45歳ノ男子, 大正12年腦炎ニ罹ツタ, アマリ强クハナイガ,トニカク既ニ他覺的ニ領取サレ得ル程度ノ言語澁滯ガアリ,左上肢ノ運動ニ自然ナ滑 脱ノ趣ヲ缺ク・ 錐體道性障礙ハ陰性デアル・ 本人ハ類リニ訴ヘテイフ, 力ハサウ弱ツタトハ思ハナイ――賃 際弱クナイ, 握力右 26, 左 25――ガ, 仕事ニ着手シヤウトスル時急ニ力ガ出ナイ, ソノ繭チテ來ルマデニ多 少ノ時間ヲ要スルト・コノ言葉ハ中々面白イ. 今デハタダ自覺域内ニトドマツテキルニ過ギナイコノ感ジガ・ 明瞭ナ錐體道性證狀トナツテ,ソノ覆面ヲ棄テル時ガ恐ラクハ早晩來ルノデハナカラウカ. 卽チコノ例ハ旣 ニー分ノ外錐體道性色彩ヲ帶ピテキルト云ツテモ差支ハアルマイ. 以上ノ4例ヲ引キクルメテ考ヘルト,第 3例ニハ大ナル價値ヲ置クコトガ出來ナイガ,2例ノ外錐體道障礙ト1例ノ硝子體溷濁トハ疑フベカラザル 流行性腦炎ノ後貽症デアル. タダソノ症例ノ寡イノガ遺憾デアルケレドモ, 一方教室例ノ檢討ニヨツテ大正 7年以降立派ナ流行性腦炎ノ存在ヲ證シ得ルト共ニ,他方又病後歷ノ調査ヲ通ジテ大正元年度歿ノ眞性質ニ 徹スルコトガ出來タ以上, ソノ邊ハ必ズシモ深ク拘泥スルヲ須牛マイ. 或意味ニ於テ既ニ貫通セラレタ史的 豚絡ニ對スル補遺トシテ満足スペキデアラウ.

同ジ程ノ心持デ大正 13 年度疫ニ關スル調査ヲ摘記シ度イ・役ニ立ツタ同答ハ 122 信デ,全然異常ナシトイフ者ガ 43,極メテ輕微ナ障礙ガドコカシラニ残ツテキル人ガ同ジク 43,ソノ中記憶不良 18,多感刺戟性 20, 睡眠淺表 3, 眩暈 4,耳鳴 8, 重聯 6, 言語吃吶 5, 震顫 3, 感覺鈍麻しびれ感自發痛 5 (コノ總和ハ勿論 45 ノ上ニ出ル・1 人デ 2 種以上ノ證候ヲ兼有シテキル人ガアルカラデアル), 顯著ナ病變ヲ遺残シテキル者 36 名デアル・コレヲ年齢ニ從ツテ次ニ表示ショウ・

患者	男女別	年齡	後貽症狀	思者	男女別	年齡	後 貽 症 狀			
μО	å	4	頻縮發作	浅〇	8	57	「パルキンソニスムス」			
宮〇	ę	7	瞳孔不全	藤〇	8	57	輕偏幾,震顫			
龜〇	ę	9	偏攤,强梗額貌	栗〇	ð	57	感覺鈍麻,味覺ノ高度ナル鈍麻			
宮〇	â	9-	偏難	坪〇	â	59	「パルキンソニスムス」 精神異常			
林〇	٩	12	偏側「パルキンソニスムス」	小〇	ð	61	複視			
柿〇	ð	13	複視, 運動遲徐, 言語鼻調	野〇	ð	63	「パルキンソニスムス」			
岡〇	ę	14	偏難	BO	ô	64	複視			
國〇	ð	15	癲癇發作, 性格異變	清〇	â	65	輕偏癱			
高〇	ę	15	瞻視發作?	40	ô	67	精神異常			
、石〇	ę	24	高度「パルキンソニスムス」,複視	糜つ	ô	67	偏難			
大〇	ð	30	「パルキンソニスムス」	村〇	ô	69	複視			
фO	8	39	複視, 言語澁滯, 重聽, 半麻痺?	丹〇	ô	73	輕偏癱			
佐〇	ô	44	性格異 <b>變</b>	和〇	6	73	複視。精神異常,多少麻痺?			
EO	ę	50	华麻痺,前方突進症 ?	岩〇	ę	74	半麻痺			
村〇	ô	51	性格異變	溝〇	ę	74	精神異常			
田〇	ę	54	震顫、假面性强剛顔貌, 言語澁滯, 「ベルキンソニスムス」?	赤〇	ô	75	偏難,震顫			
角〇	ô	54	言語障礙,感覺鈍麻	難〇	â	76	<b>半麻痺</b>			
橋〇	ô	55	輕偏癱	(因=年齢ハ昭和2年現在)						
<b>t</b> tO	ô	57	輕偏癱			-				

年齢!移動範圍ガカナリ大キクテ4歳カラ 76 歳ニ及ビ,中ニハ隨分高齢ナモノモ少クナイカラ,色々ナ神經精神症狀ヲ高調スル點ニ於テ,誰シモ多少ノ危懼ヲ抱カザルヲ得ヌカモシレナイ. ガ,私ハ或ハ仔細ニ

記載ヲ玩味シ、或ハ又直接本人ヲ診察シテ後貽症狀ヲ決定シタ・大ナル誤ハナイツモリデアル、タダ和田某73歳以下ノ5名ハソノ麻痺ナリ精神異常ナリガ、直接原病ニ踵イデ起ツタトイフ意味ノ明瞭ナ附記ガアツタ爲メ棄テルコトヲ敢テシナカツタノデアルガ、ソノ直グ一ツ前ノ丹原某ノヤウニ親シク観察ヲ下スノ機會ヲ持タナカツタカラ、ソノ症狀ノ正確サニ對シ、年齢ヲ顧慮シタ多少ノ割引ヲ加ヘナケレバナラヌノハ當然デアルト思フ・シカシナガラ大局カラ通豐スルト、2—3ノ新症狀ノ出現ハ勿論デアルガ、Parkinsonismusトイヒ、偏難トイヒ、複視トイヒ、運動退徐、言語澁滯トイフ、悉ク大正元年カラ12年マデノ後貽症デモ亦逢者サレタトコロデアツタ・今更ラ云フヲ要シナイケレドモ、元年カラ13年延ヒテ今日ニ及ンデキルコノ脳疾患が前後ヲ通ジ同種同一ノ病氣デアルコトハモウ動カスコトガ出來ナイト言ツテョイ・

以上2様ノ検討ヲ經テ大正元年以降ノ控「独関の益明カトナッタ・然ラバ大正元年以往ハドウテアラウカ・私へ姑ク目下我教室ノ所蔵ニ歸シテキル舊岡山縣病院、岡山醫學専門學校神經科記錄並ニ岡山醫科大學神經精神科ノ病症日誌ヲ飜シ、ソノ中ニ何等カノ立證材料ヲ求メントシタ・コレガ第3ノ調査デアッタ・

日誌ハ大正12年カラ明治28年マデ溯ルコトガ出來、殆ド悉ク荒木教授董督ノ下ニ成ツタモノデ、タダ同教授御退職後林教授ガ御赴任ニナルマデノ最後ノ1年度ハ私自ラ親シク觀察シタモノデアル、年所ノ上カラミレバ一見恰好ノ資料デアルガ、明治28年ヨリ同41年ノ間ハ全部純粹ナ精神病例ノミデ、神經病例ノ記載ハ明治42年ヲ以テ始マツテヰル・卽チ大正元年ヲ距ル辛ウジテ3年テ、年代ノ範圍ニ於テカナリ局限シタ憾ガナイ譯デモナイ・ガシカシ、腦炎ノ多クハ後胎症ヲ伴フ、別ノ言葉デ云へバ腦炎後胎症ニハ必ズ腦炎ノ先行ガアル・從ツテ腦炎後胎症ノ證明ハ原因タル腦炎ノ起源ヲ更ニ後胎症發生ノ以往ニ置カセルコトニナルカラ、モシ觀察ノ目標トシテ後胎症ヲ擇ブナラバ、時間的幅員ハ自ラ過去ノ領域内ニ擴大サレ、3年ノ日子又一概ニ短イトハ云へナイト思フ・シカモカウイフ場合ニハ、臨牀像ノ最顯著デ曖眛ヲ容ルル餘地ノナイヤウナ後胎病型ヲ採ルノガー番適當ナ處置デアル・以上ノ意味ニ於テ私ハ明治42年以降ノ記錄ノ中カラParkinsonimus ニ包括サルペキ症例ヲ選ビ出シテ見タ・

全體デ 41 例ヲ得タガ,ソノウチ年齢 40 歳以上ノ 29 例ヲ棄テタ. コレ老人性病變ト解釋サルル眞性振顫 麻痺ノ混淆ヲ避ケタカツタカラデアル. 残リ 12 例ノ要點ヲ次ニ表示スル.

症		殺		病 時		發		見時		發發 病見		
例	患者	年月	年齢	症	狀	年月	年齢	症	狀	内兄ョマリデ	當時診斷	推測診斷
1	猪〇	明治 32	29	熱發不 肢, 手 肢震顫	明,上指,下	明治 42.6		護頭増 向, 書 瞳孔不	悪ノ傾 字不能 同	10年	震顫麻痺	「パルキンソン」
2	井〇	明治 39	23	自然ニ 振始マ 不明	手指顫ル, 熱	大正 2.10	30	<b>幾</b> 頗及 時身體 記憶減	ビ步行 動搖, 退	7年	髲顫麻痺	「パルキンソン」
3	HO.	明治 42	34	右上肢が同側下が	技ニ及	明治 44.5	36	震顫著 語困難 事不能	明 <b>,發</b> , <b>手</b> 仕	2 <b>4</b>	震顫麻痺	「パルキンソン」
4	平〇	明治 44.3	927	熱不明, 左下肢, 左膊同( ニ及プ	彩顔,	大正 2.12	20	震顫 左脚强 たけ感 たい感	項,背, 梗,步 方轉倒	2年	震顫麻痺	「パルキンソン」

症		發		房 時	發		見 時	發發		
例	│患者	年月	年齢	症 狀	年月	年齡	症	病見ョデ	當時診斷	推測診斷
5	齋○	明治 44 6	17	熱不明. 發語 困難. 手指震 頭	大正 元 10	18	手指震顫,稅 語困難,書字 困難	1年	麻痺性癡呆	「バルキンソン」
6	中〇	大正 63	34	熱不明, 自然 二頭振, 發語 障礙	大正 6 10	34		6月	腦脊髓多發硬化?	「パルキンソン」
7	吉〇	大正 6.9	23	熱不明,發語 困難,右手運 動障礙	大正 6.12	23		3月	麻痺性癡呆?	「ベルキンソン」
8	福〇	大正	29	左足震 <b>頭後</b> 左 上肢ニ及プ	大正 11 6	34	四肢皆震顫	5年	震顫麻痺	「パルキンソン」
9	垂〇	大正 7	33	熱不明、自然 ニ顔面表情ヲ 失フ	大正 123	38	寡言,顔貌怒 ルガ如シ,振 顔	5年	「パルキンソン」	「パルキンソン」
10	ΞΟ	大正 7	37	左手振顫, 後左足振顫	大正 910	<b>3</b> 9	四肢皆震顫. 强梗運動不自 由	2年	震顫麻痺	「パルキンソン」
11	松〇	大正 104	18	熱不明,旅行 中睡眠障礙, 複視	大正 11 12	19	四肢震顫及ビ 强梗	15年		「パルキンソン」
12	竹〇	大正 124	20	流行性感胃熱 發至 40 度 10 日持續	大正 12.10	20	振顫 發語困 難, 唾液分泌 亢進等	6月	「パルキンソン」	「バルキンソン」

マゾ大正三入ツテカラノ7例ヲ考ヘテ見ョウ. コノ中デ先ニ熱性疾患=罹リ,ソレガ治ツタ後デ,別筒ノ病的症狀ガ自然ニ興起シテ來ル後腦炎性 Parkinsonismus ノ定型的經過ヲ示シテキルノハ第11,第12ノ2例デアル. 第12例ハ流行性感胃=罹ツタトイフ. 40°Cノ熱ガ10日間持續シタ當時ノ疾患ソレ自體ガ或ハ既ニ流行性脳炎デハナカツタカ,今違ニ既往ニ瀏ツテ斷ズルコトハ出來ナイケレドモ,モシ眞ニソレガ流行性感胃クツタトシタトコロデ,猶,偶我々ラシテ流行性感胃カラ脳炎病毒ノ活動ヲ惹起シ,終ニ後腦炎性 Parkinsonismus ニナルトイハレタ西洋ノ嗜眠性脳炎ノ事例ヲ考ヘサセルニ足リルト思フ・第11例ハ18歳ノ中學生デ,修學旅行中過勞シ睡眠障礙ヲ起シ複視ガ加ハツタ、爭フベカラザル流行性脳炎デアル.トコロガ,コノ2例ヲ除イタアトノ5例ニハ熱發ノ歴史ナク,急性疾患ノ既往歴ガナク,イゾレモ皆イツトハナシニ神經證狀ヲ發シテ來タヤウニ見エル.シカシナガラ,年齢悉ク40歳以下デアルカラ,外錐體道系統ノ老年性變性ニ基クト解釋サレテキル普通ノ震顫痲痺トハ認メ雖イ.第8例第10例ニ當時診斷が震顫痲痺トアツテモ必ズシモ深ク拘泥スルノ要ハアルマイ,寧ロ廣クParkinsonismusヲ指シタト理解スベキデアラウ.モン强ヒテイフナラバ,ココニ所謂幼年性

震顫痲痺 Paralysis agitans juvenilis ナルー病型ガアル. ダガ,現今ノ知見ヲ以テスレバ. 幼年性震顫麻痺ハ畢竟ズルニ幼年性 Parkinsonismus デ, コノ Parkinsonismus ナルー機ノ アラハレノ下ニ大ニ本態ヲ異ニシタ或數ノ疾患が包括サレテキルノデアル. Wilson-Westphal Strümpell 氏病ガソノ一部ヲ爲スコトハトクニ明カトナツタ・充分ノ分析ヲ經ナイ1, 2ノ疾患 モアルヤウデアル、マダ發掘サレナイモノモ或ハアルカモシレナイ、ト同時ニ、ドンナ年齢ニ デモ起り得ル後脳炎性 Parkinsonismus モ亦ココニ重要ナ地步ラ占メナケレパナラヌ、カウ考 ヘテ來ルト,私ノコノ5例ノ中ノアルモノガ,年ノ若イタメ所謂幼年型隱韻麻痺ニ編入サレル トシテモ,ソレハタダ若イ人! Parkinsonismus トイフダケノコトデ,ソノ診斷デ萬事濟ンデ 了ツタ譯デハナイ, 我々ハ更ニー歩ヲ淮メテ疾患ノ本態ヲ窮ムベキデアル, デハ鴬面ノ問題ハ ドウカ、私ノ例が眞性震顫痲痺デナイコトハ既ニ述ベタ、未知半明ノ病氣ハ姑ク商量ノ範圍ニ 入レ難イ. サウスルト 殘ルトコロハ Wilson-Westphal Strümpell 氏病カ後腦炎性 Parkinsonismus カデアルガ, 當時!記載ハ截然コレヲ決スベク餘リニ短イ. タダ Wilson-Westphal Strümpell 氏病ハ寧ロ希有ノ疾患ニ屬スルガ, 後腦炎性 Parkinsonismus ハ手近ノ第 11, 12 例 ガ示ス通りゴクアリフレタ病氣デアルノミナラズ, 原病タル腦炎ト癥發症タルParkinsonismus ノ擡頭トノ間ニハ時ニ數年ニ亙ル時間的間隔ガ置カレルタメカ,將又原病ソノモノガ必ズシモ 强烈ナルヲ要シナイタメカ, 腦炎罹患ノ歴史ハトカク閑却サレ勝デ,特ニ患者ノ注意ヲ刺戟シ 記憶ヲ喚起セシメナケレバナラヌ事態ニ逢着スルコトガ甚ダ多イ.コノ2點ヲ考慮スルト,腦 炎ノ知識ノマグ貧シカツタ當時ノ5例ハ設令適當ナ記載ヲ缺イデヰタトコロデ,腦炎存在ノ否 定ヲ主張シ得ル程ノ權利ハ勿論ナイト共ニ, 5 例悉クカノ稀覯ノ疾患タル Wilson-Westphal Strümpell 氏病ダトスルノハ復アマリニ穿鑿ニ過ギル. 卽チソノ全部若シクハ大部分ハドウシ テモ後腦炎性デナケ レバナラヌ.

第1カラ第5=至ル明治年間15例ハ令説イタ第6ヨリ第10マデノ5例ト同ジ理由ノ下ニ 後腦炎性 Parkinsonismus トシテ解釋セラルベキモノデアル、ソノウチ最モ古イ第1例ハ賞ニ 明治32年ヲ以テ始マリ、當時ノ症狀ハスベテ Parkinsonismus ニ屬スベキモノデアルカラ、原 病タル腦炎ハ必ズソノ前、即チ明治32年以往ニ起ツタモノデナケレバナラヌ。

脳炎後胎症タル Parkinsonismus ヲ目標トシテ進ンダ以上ノ調査ハ略豫期ノ收穫ヲ齎ラシタ. 私ハ猶, ココニ日誌賺讀ノ間偶目ニ觸レタ急性症例及ピソノ遺残狀態 12 例ヲ記シテ私ノ考按ノ裏書トシタイ. (次頁表参照).

コレ等ノ例ハ一體ドコニ脳炎ト相渉ルトコロヲ持ツテキルカ・マジ遺残症狀ノ側カラ見レバ、ソコニ自ラ2ツノ別ガ立テラレル・第1群ハ急性病變ガマダ治リキラナイ若クハソノ儘ノ持續トモイヘル第1,第2,第3,第4,第8,第12ノ6例ヲ包括シ,第1例ノ顯著ナ精神異常,第2,第3,第12ニ現レタ運動障礙,第4例ニ於ケル疼痛感覺ノ變化,第8例ニ來タ聾及ビ步行萎弱等イゾレモ器質性ト考ヘラルル重イ神經症狀が發病以來2箇月乃至6箇月ニ及ンデ猶,執

症			爱	病		740 and 643.		
例	患	者	年月	年齡	登 病 時 急 性 證 候	遺 残		
1	1 座 0		明治	19	過勞後睡眠不良,頭痛突然嗜眠狀	2 箇月後記憶著シク減退シ不眠存		
			44.3	10	態トナル	ス、重斃、了解不良、あめんちや様		
2 堀 〇		0	明治	37	5月末複視,6月8,9日頃複視去 ルト同時ニ右上下肢運動障礙,發	2 箇月後稍緩和ノ黴アルモスペテ		
	4 州		44.5		語不明瞭トナル	ノ症狀循遺殘ス		
3	3 赤 〇		明治	27	3月中旬ヨリ發語困難,22日意識不明瞭,嗜眠3日持續,醒覺後右	1 週後失語精恢復、40 日後少シク 歩行シ得、4 箇月後言語歩行障礙		
	, ~		45.3		偏癱,失語,步行不能	る		
4	4 功 〇		明治	24	6月2日突然頭痛眩暈嘔吐發熱40 度,昏睡7日,其間左上下肢痙攣,	4 箇月後前頭痛、項痛、眩暈、不 眠、兩肩ョリ前膊外側ニ瓦ル疼痛		
			45.6		45 日後無熱	及ビ異狀感覺		
5	福	0	大正	38	月日不明, 悪感戰慄ニテ發熱, 强 頭痛, 左上下肢運動障礙, 半身感	3 年後右頸倦怠,牽引感,身體精 神的過動後頸部倦怠感ノタメ頭ヲ		
			6		<b>党</b> 缺損	右=傾ク		
6	中	0	大正	28	發熱强項,發語困難,步行不能 膊運動障礙	1年半後運動障礙及ビ震顫アリ		
	<u> </u> 		7.3	İ				
7	重	0	大正 8.3	17	12 月末熱性疾患,睡眠障礙、譫妄、 涕泣, 1 箇月後輕快,頭重頭痛、	大正 10 年 6 月睡眠不良,眩晕,精神異常 2 箇月後治,11 年 6 月來同		
	<u> </u> 	_	大正	<u> </u>	記銘障礙等 4月9月20年11日   京教   株成株	様・状態ニテ外出徘徊放歌		
8	Ħ	0	9.4	15	4月2日突然眩暈,高熱,精神朦朧,10日後漸ク發語シタルモ言語 不明瞭,聾,舌尖右偏	2 箇月後後言語明瞭, 4 箇月後兩耳   循聾,步行障礙,頭痛眩暈		
-	<u> </u>		大正	<u> </u>	个为版, 等, 自天石雕			
. 9	白	0	9.4	12	熱發性腦疾患,經過2箇月	1年2箇月後睡眠障礎及ど複視		
-			大正		<u> </u>			
10	虎	O.	10.4	9	熱性腦疾患	1年6箇月後盗僻,徘徊		
	l		大正	<u> </u>	5月14日4百般 加种含盐 场车	   1 年 2 箇月後兩脚及ビ左膊運動障		
11	太	0	10.5	21	5月14日夕肩僻. 突然高熱,譫妄 6月27,8日頃ヨリ意識明瞭	礙,右膊完全麻痺,頭重,複視, 兩膊時々痙攣		
			大正		10月9日夕刻,高熱,嘔吐,意識 溷濁,顏左半,軀幹,四肢右半感	   6 筒月後稍輕快セルモ,諸黴猶存		
12	石	0	10.10	44	<b>党鈍麻,右上下肢運動障礙,構音</b> 吳常	の個力技術程法とから、領域指行ス		

拗=固着シテ離レナイ. コレハ脳炎以外ノ疾患ニ於テアマリ類例ヲ見ナイトコロデアル. 第2 群ハカクノ如キ直接ノ餘響が略消エテ了ツタト思ハレル, 發病後1年2箇月カラ3年ニナル爾他ノ6例デ, 不定ノ神經症狀ヲ示スモノニ第5, 第9例ガアル. 第5例ニハ別ニ特殊ナ症狀ハナイガ第9例ニハ複視ガアル. 運動障礙ヲモツノガ,第6第11ノ兩例デ,前者ハ震顫ヲモツトイフ,或ハParkinsonismusノ始メデアルカモシレナイ. 後者ハ恐ラク錐體道性デアラウガ,復視ガ合併シテヰル. 残リノ第7,第10ノ2例ハ性格ノ異調ト解釋サレル. 凡ソ脳炎後胎症ニ ハ幾多ノ病型ガアルガ、ソノ中最獨自ノ面目ラ發揮シテキルノハ Parkinsonismus デハアルケレドモ、何モコレバカリニ限ツタ譯デハナク、錐體道症狀、性格ノ變化等皆可能ナ形式デ、複視モ亦頻發徴候ノ1ニ屬スル、即手以上ノ6例ハ第5例ノヤヤ明確ヲ缺クノヲ除イテハ、悉ク腦炎後胎症ト認メテイイ狀態ニアルモノダト思フ.

ソコデ急性證狀ソノモノノ觀察ニ移ル、第1ニ注意シナケレバナラナイノハ發熱デアルガ,ソノ記載ノナイノハ第1,第2,第3ノ3例ノミデ,他ノ9例ハドレモ有熱デアツタ、コレラ神經系統ノ方面カラ觀察スレバ,第9,第10ノ兩例ニ於テコソ委曲ヲ盡スコトガ出來ナカツタガ,ソノ外ハ皆相應見ルベキ證狀ヲ備ヘテ居ツタ、第1例ニハ嗜眠ガアル、第2例ニハ嗜眠ト運動及ビ言語ノ障礙ガ存スル、第3例ハ失語偏難ノ他ニ猶,複視ガ證サレタ、第4例及ビ第12例ノ嘔吐昏睡,第5例ノ惡感戰慄强頭痛,第6例ノ項部强直ハワレワレガ大正13年ニ屢逢着シタ腦膜炎模刺戟狀態ヲ聯想セシメル、第8,第11例モ同ジクコノ型ニ近キモノデハナカツタカ,モシサウデナイトシテモ,前者ニ避ガアリ,後者ニ複視ヲ發シタトコロ腦炎ト見做シテマヅ差支ガナササウデアル、コレヲ要スルニ,全例ヲ通ジ悉ク急劇ナ中梶神經系統ノ病變デ,第4,第5,第6,第11ノ間ニハ流行性腦脊髓膜炎ノ混入ガ或ハアツタトスルモ,ソノ他ノ大多數例ヲ流行性腦炎以外ノ疾患トスルノハ蓋シ無理デアル、殊ニソノウチデ最モ古イ第1例ハ症狀太が定型的ナルノミナラズ、實ニ明治44年3月ニ罹患シテキルノデアル

最後ニー言シタイ、大正元年以降ノ流行性腦炎ノ存在トソノ脉々相傳へテ行ツタ有機ハコレデ愈々明カトナツタ、タダソレバカリデハナイ、既ニ明治44年3月ニ於テ急性證狀ラモツタ端的ナ實例ガアツタ、更ニソノ特異ナ後貼病變ニ照シ、猶、遙ニ遠イ明治32年以往ニ溯ルコトサヘ可能ナノデアル、モツトモ、コレラ 1580 年ノ昔ラ温ネタ西洋ノ嗜眠性腦炎ノ歴史ニ比ベレバ、誰カ長イトイフコトガ出來ヤウ、シカシナガラ、不鮮明ナトリヤウデハ色々ニトレル文籍ノ記述以外ニハ追蹤ノ途全ク経エタト思ハレタ時代ニ於テ、我等ノ同胞ノ肉脾ノ中ニカクノ如キ病毒ガ宿ツテ居ツタトイフコトハ、トモカクモ事實ヲ以テ證明サレタノデアル、

(6.12.5.受稿)

## Kurze Inhaltsangabe.

## Katamnestische Untersuchungen über die japanische epidemische Encephalitis.

Von

Kazuo Takeno.

Aus der psychiatrischen Klinik der Med. Universität Okayama, Japan (Vorstand: Prof. Dr. M. Hayashi.)

Eingegangen am 5. Dezember 1931.

Die Arbeit umfasst drei Reihen von klinischen Nachforschungen über die japanische epidemische Encephalitis.

- 1. Bei der besonders genauen Anamnesenaufhebung fanden sich die ursprünglichen akuten Erkrankungsphasen der seit 1924 in unsrer Klinik beobachteten 75 metencephalitischen Fälle chronologisch folgendermassen verteilt: 3 Fälle auf 1918, 4 auf 1919, 4 auf 1920, 9 auf 1921, 4 auf 1922, 1 auf 1923, 29 auf 1924, 13 auf 1925, 7 auf 1926, 1 auf 1927.
- 2. An Hand umfangreicher Rundfragen nach den Katamnesen der im Laufe 1912—1924 an Encephalitis gelittenen 794 Personen sind recht verschiedene metencephalitische Krankheitsbilder wie pyramidalen-, extrapyramidalen Zeichen, Sensibilitätsstörungen, psychische Defektzustände, Doppeltsehen, Schauanfälle usw. festgestellt worden. Bemerkenswerterweise sind dabei auch viele Fälle von typischem Parkinsonismus gefunden, ganz im Gegensatz zu der Ansicht Prof. Kanekos, der das Auftreten des Parkinsonnismus als Nachkrankheit seiner epidemischen Encephalitis B ablehnt.
- 3. Bei der Durchmusterung der Protokolle unserer Klinik seit 1896 lassen sich die ältesten Encephalitisfälle auf das Jahr 1899 zurückkommen.